

## 国内の生化学検査、血液検査市場を調査

### 2012年の市場予測

生化学検査は前年比年比1.2%増の775億円

... 自動化学分析装置用は伸び悩むが、その他がカバー

血液検査は同2.3%増の354億円

... 凝固線溶系のFDPやDダイマー、PT-INRが市場を牽引

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、2011年6月より国内の臨床検査市場を網羅する調査を行っている。調査は4回に分けて行い、その第二回目となる今回は生化学検査と血液検査の市場を調査した。その結果を報告書「2012 臨床検査市場 No.2（生化学検査・血液検査市場）」にまとめた。

この報告書では、生化学検査は化学的に分析する検査を、また、血液検査は血液の凝固線溶系検査と血球計数検査、血液像分類検査といった血液学的な検査を対象とし、検査項目ごとの検査数と検査薬市場、検査装置市場を分析し、将来予測を提示した。

尚、生化学検査のHbA1c（糖尿病関連検査）については生化学的測定法と免疫学的測定法があるため、例外的にラテックス定量法、TIA法といった免疫学的測定法についても記した。また、生化学検査の一部の検査項目及び血球計数検査、血液像分類検査に関しては分析装置の試薬（消耗品）を検査薬の売り上げとしている。

### < 調査結果の概要 >

#### 1. 生化学検査の検査薬市場（消耗品含む）

	2011年見込	前年比	2012年予測	前年比
生化学検査市場	766億円	101.3%	775億円	101.2%
自動化学分析装置用	524億円	100.2%	524億円	100.0%
血液ガス分析装置用	149億円	104.2%	156億円	104.7%
簡易分析装置用	70億円	102.9%	70億円	100.0%

2011年の検査薬市場は前年比1.3%増の766億円が見込まれ、2012年は前年比1.2%増の775億円が予測される。

市場の7割近くを占めるのが自動化学分析装置用である。HbA1cの伸びにより微増が見込まれるが、HbA1cの実績を除くと前年比マイナスとなる。自動化学分析装置用の市場に影響を与えているのは検査薬の単価下落と使用量の微量化である。いままでは保険点数のマイナス改定が単価下落の一要因となっていたが、前回（2010年）前々回（2008年）とほぼマイナス改定がおさまってきており、現在は検査薬メーカーによる価格戦略により検査薬の低価格化が進んでいる。自動化学分析装置による検査薬使用量の微量化は、特に微量化の著しい装置の普及開始から10年以上が経過していることから検査薬市場への大きな影響はほぼ一巡したと考えられる。しかし、今後も自動化学分析装置メーカー各社の微量化への追求は続くと予想されるため、検査薬市場への影響も継続すると見られる。ただ、微量化の開発もかなり進んだため、これまでに比べるとその影響は小さくなると見られる。

今後自動化学分析装置用は2013年以降微減に転じるが、血液ガス分析装置用をはじめ、その他簡易分析装置用や電解質分析装置用、血糖分析装置用などが検査数の自然増とともに伸びるため、生化学検査市場は微増推移が予想される。

#### 注目検査項目市場

##### <自動化学分析装置用HDLコレステロール、LDLコレステロール>

	2011年見込	前年比	2012年予測	前年比
HDLコレステロール	27.1億円	98.9%	26.7億円	98.5%
LDLコレステロール	28.1億円	102.6%	28.5億円	101.4%

HDLコレステロール(以下HDL-C)は、末梢組織のコレステロールを肝臓に転送するのに対し、LDLコレステロール(以下LDL-C)は、肝臓のコレステロールを末梢組織に転送する。そのため、HDLは善玉、LDLは悪玉のコレステロールと表現される。

HDL-Cの検査薬がLDL-Cに先立ち開発され、普及した。後にLDL-Cの検査薬が開発されたが、その検査数が急激に伸び始めたのは2006年頃からである。高脂血症患者の評価にLDL-Cの値が採用されたことや、スタチン系薬剤の投与によりLDL-Cの値が改善されるためである。同時にHDL-Cの検査数の伸びが鈍化し始めた。現在はLDL-Cの検査数がHDL-Cを上回っており、LDL-Cの検査数の伸びが鈍化しはじめてきている。

市場はHDL-Cが2011年に27.1億円、2012年に26.7億円、LDL-Cが同28.1億円、同28.5億円の推移が予測される。

##### <自動化学分析装置用HbA1c>

2011年見込	前年比	2012年予測	前年比
126.1億円	105.5%	132.1億円	104.8%

HbA1cは、様々な糖尿病の検査項目の中で、第一選択に位置付けられる検査項目である。近年、特定健診が開始されたことで糖尿病患者が顕在化し、患者数の増加により検査薬市場が拡大している。

HbA1cの測定方法は、精度の高いHPLC法、自動化学分析装置で測定でき大量検体の処理に適したラテックス定量法、酵素法、TIA(免疫比濁)法がある。特定健診の開始により、主に検査センターに普及しているラテックス定量法の検査数が伸びた。また、健診により顕在化した患者の治療にともない、主に病院に普及しているHPLC法の検査数も伸びている。酵素法も自動化学分析装置で簡便に測定できることから検査数が伸びている。

2011年の市場は126.1億円でHPLC法が52%、ラテックス定量法が37%を占める。2012年には132.1億円が予測される。

## 2. 血液検査の検査薬市場

	2011年見込	前年比	2012年予測	前年比
血液検査薬市場	346億円	102.4%	354億円	102.3%
血液凝固線溶系検査	135億円	106.3%	143億円	105.9%

2011年の検査薬市場は前年比2.4%増の346億円と見込まれる。血液凝固線溶系検査では血液の線溶現象を調べるFDPとDダイマーの検査数が特に伸びており、検査薬市場を牽引している。また、PT-INR(プロトロンビン時間のINR値国際標準比)をハンディ装置で簡便に測定できる検査薬(キット)が伸びている。抗凝固剤投与患者のモニタリングに、大きな装置(血液凝固装置)を持たない開業医や、治療場での測定が増加している。

< 調査対象 >

	検査薬 ( 消耗品含む )	装 置
生化学検査	自動化学分析装置用、簡易分析装置用、電解質分析装置用、血糖分析装置用、H P L C 装置用、血液ガス分析装置用( 酵素検査、アインザイム検査、脂質関連物質検査、蛋白・窒素成分検査、糖質関連物質検査、電解質・無機質検査、その他検査 )	自動化学分析装置、簡易分析装置、電解質分析装置、血糖分析装置、H P L C 装置、血液ガス分析装置
血液検査	血液凝固線溶系検査、血球計数検査 ( 消耗品 ) 血液像分類検査 ( 消耗品 )	血液凝固装置、PT - INR 装置、血球計数装置、血液像自動分類装置

< 調査方法 >

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献調査を併用

< 調査期間 >

2011年10月～2012年1月

以上

資料タイトル：「2012 臨床検査市場 No. 2 ( 生化学検査・血液検査市場 )」 体 裁 : A4判 281頁 価 格 : 200,000円 ( 税込み210,000円 ) 書籍・電子版セット : 220,000円 ( 税込み231,000円 ) 調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514 発 行 所 : 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2 - 5 F・Kビル TEL03-3664-5811 ( 代 ) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : <a href="http://www.group.fuji-keizai.co.jp/">http://www.group.fuji-keizai.co.jp/</a> <a href="https://www.fuji-keizai.co.jp/">https://www.fuji-keizai.co.jp/</a>
--